放送大学研究年報　第11号（1993）35-45頁
Journal of the University of the Air, No. 11 (1993) pp. 35-45

古典の中の人とからだ（7）

――『ヨシュア記』の中から――

平　沢　彌一郎[*1)]・臼　井　永　男[*2)]

Man and Body Described in the Classics (7)

――Man and Body Described in the Book of "JOSHUA"――

Yaichiro HIRASAWA and Nagao USUI

ABSTRACT

In all twenty-four Chapters of *Joshua*, words concerning "human" and "body" are used 142 times. Examination of these usages reveals the following:

1. At the time that *Joshua* was written, the meaning of "human" and "body" were different from their usage in Greek and modern times.
2. Words about each portion of the body were used fifty-seven times. Among these twenty-nine words referred to the upper portion of the body. Twelve words concerned the head, eleven words the lower portion of the body, and five words the trunk.
3. Words in connection with "life" are used fifty-six times. Words related to killing are mentioned twenty-three times, and related to "leave" words are used thirteen times.
4. Words concerning the condition of the body are used eighteen times and words referring to circumcision nine times.
5. Words related to other parts of the body are used twelve times, and words referring to the spiritual "heart" are used nine times.

I.　はしがき

ヨシュア「[Joshua, the successor of Moses, יְהוֹשֻׁעַ (y^{e} hôsua'), 元来はホセア, הוֹשֵׁעַ (hô š ēa') であったが（ホセア 1.$_{1,2}$），ヨシュアと改名した（民数記 13：16）].「ホセア」の名は，イエス（Ἰησοῦς）と同じで，「ヤハウェ（神）は救いである」という意味である．

モーセの後継者として，ヨシュアは出エジプトのイスラエル民族を率いて，カナンに入った．紀元前13世紀末期，聖書の古い伝承によって，彼の生涯が記されている．ヨシュア

*1) 放送大学教授（保健体育）
*2) 放送大学助教授（保健体育）

記は，旧約聖書の第6番目に位置する．ヘブル語原典では，「預言書」［ネビーイーム］ נְבִיאִים (nᵉ bî'im) のうちの［前の預言書］ רִאשׁוֹנִים (ri'iônîm) の最初に置かれている．

1 וַיְהִי אַחֲרֵי מוֹת מֹשֶׁה עֶבֶד יְהוָה וַיֹּאמֶר יְהוָה אֶל־יְהוֹשֻׁעַ
בִּן־נוּן מְשָׁרֵת מֹשֶׁה לֵאמֹר׃ 2 מֹשֶׁה עַבְדִּי מֵת וְעַתָּה
קוּם עֲבֹר אֶת־הַיַּרְדֵּן הַזֶּה אַתָּה וְכָל־הָעָם הַזֶּה אֶל־הָאָרֶץ
אֲשֶׁר אָנֹכִי נֹתֵן לָהֶם לִבְנֵי יִשְׂרָאֵל׃ 3 כָּל־מָקוֹם אֲשֶׁר
תִּדְרֹךְ כַּף־רַגְלְכֶם בּוֹ לָכֶם נְתַתִּיו כַּאֲשֶׁר דִּבַּרְתִּי אֶל־מֹשֶׁה׃

1.1 ヤハウェの僕(しもべ)モーセが死んだ後(あと)，ヤハウェはモーセの重臣，ヌンの倅(せがれ)ヨシュアに言われた，2「わたしの僕モーセは死んだ．そこで今お前と，このすべての民とは，全員が立ち上がって，このヨルダンを渡り，わたしがイスラエルの人々に与える土地に出かけて行け．3 お前たちが，お前たちの足の裏で踏む土地はことごとく，わたしがモーセに前もって約束したその通りに，お前たちのものとなるであろう．［平沢訳］

ヨシュア記の冒頭に，「足の裏」 (kaph-regel) という言葉がでてくる．この語は旧約聖書の中で，つぎのように用いられている．

NO	出典と章節		「足の裏」が用いられている節の文
1	申命記	2.5	彼らの地は，足の裏で踏むほどでも，
2		11.24	あなたがたが足の裏で踏む所は皆，
3		28.35	足の裏から頭の頂にまで，
4		28.56	足の裏を土に付けようともしない者でも，
5		28.65	また足の裏を休める所も得られないであろう．
6	ヨシュア	1.3	あなたがたが，足の裏で踏む所は皆，
7		3.13	全地の主なる神の箱をかく司祭たちの足の裏が，
8		4.18	司祭たちの足の裏がかわいた地に—
9	II サム	14.25	その足の裏から頭の頂まで—
10	I 王	5.3	主が彼らをその足の裏の下に置かれ—
11	II 王	19.24	わたしは足の裏で，エジプトのすべての川を—
12	ヨブ	2.7	その足の裏から頭まで，
13	イザヤ	1.6	足の裏から頭の頂まで，
14		37.25	わたしは足の裏でエジプトのすべての川を—
15	エゼキエル	1.7	足のうらは子牛の足のうらのようで—
		43.7	わたしの足の裏の踏む所，
16	マラキ	4.3	彼らはあなたがたの足の裏の下にあって，

足の裏．そこはまぎれもなく「立ち構えた人間」という，生々しい実体がある．「実体」という言葉に由来するスブスターレ(substere)というラテン語は，文字通りあらゆるものの上に「立つこと」を意味する．場所（プラッツ）という言葉もプランタ（planta）すなわち「足の裏」からきている．足の裏というこの場所だけは，「私」に属し，「私」だけのもの，他の誰のものでもない．それは，きわめて貧しい面積(日本人の全体表面積は2.65 cm^2に対して，立った時の両足の接着面積はその約1％）ではあるが，それが，「私の定位」，「足場」，そして「立場」である．

ヨシュア記の冒頭に出てくる「足の裏」は，ヤハウェの立つ「定位」，「足場」そして「立場」の意味である．古代思想において，イスラエル人は「からだ」の一部分である「足の裏」を，なぜこのような考えを抱くようになったのであろうか？

「お前たちがお前たちの足の裏で踏む土地」とは，ヤハウェの支配する土地のことである．その土地は，ことごとくヤハウェがすでにモーセに約束した土地であるという．モーセの死後，かれヨシュアはその指揮のもとに，イスラエルの12の部族が一体となって，ヨルダンを渡りエリコを通り，土地の中央を占拠した(2-9章)．次いで南を攻撃し(10章)，さらには，はるか北方に転戦して(11章)，占領を成就する．そして，それは，すべて，ヤハウェがモーセと約束されたことの成就である．さらにまた本書は，ヤハウェの命に従い，その征服のために戦ったイスラエル人たちは，彼らの「足の裏」による踏破によって勝ちを得た，戦闘の記録書であるということができよう．

その戦闘の記録書の中から，「人とからだ」に関わりのある言葉を逐一拾い上げ，それらを考察したところ，二，三の知見を得た．その中で最も顕著なことは，これまで調べてきたモーセの五書と同じように，ギリシャや近世の「からだ」に当たる用語が，まったく使用されていなかったことである．すなわち，古代思想において，遠くイスラエルの「人々」には，いわゆる「からだ」という概念が存在しなかったのである．

II.　各章・節に使用されている用語

章と節	使　用　箇　所
1：1	モーセが死んだ後，
：2	わたしのしもべモーセは死んだ
：3	あなたがたが，足の裏で踏む所はみな
：4	あなたが生きながらえる日の間
：5	この法律の書をあなたの口から離すことなく
：18	聞き従わないものがあれば，生かしてはおきません
2：13	彼らに属するものを生きながらえさせ，わたしたちの命を救って，死を免れさせてください
：14	われわれは命にかけて，あなたがたを救います
：16	三日の間そこに身を隠し

：19	血を流されることがあれば，その責めはその人自身のこうべに帰すでしょう…家の中にいる人に手をかけて血を流すことがあれば，その責めはわれわれのこうべに帰すでしょう
：23	その身に起こったことをつぶさに述べた
：24	主はこの国をことごとくわれわれの手にお与えになりました
3：5	あなたがたは身を清めなさい
：13	司祭たちの足の裏が
：15	司祭たちの足が水ぎわにひたると同時に
4：3	司祭たちが足を踏みとどめたその所から
：5	肩にのせて運びなさい
：9	司祭たちが，足を踏みとどめた所に
：18	司祭たちの足の裏がかわいた地にあがると同時に
：24	主の手に力のあることを知らせ
5：2	イスラエルの人々に割礼を行いなさい
：3	イスラエルの人々に割礼を行った
：4	ヨシュアが人々に割礼を行った理由はこうである…荒野で死んだが，
：5	その出てきた民は皆，割礼を受けた者であった…荒野で生れた民は，みな割礼を受けていなかった
：6	いくさびとたちは，みな死に絶えた
：7	ヨシュアが割礼を行ったのは…彼らは途中で割礼を受けていなかったので，無割礼の者であったからである
：8	すべての民に割礼を行うことが終ったので…傷の直るのを待った
：13	目を上げて見ると，ひとりの人が抜き身のつるぎを手に持ち
：15	あなたの足のくつを脱ぎなさい
6：2	あなたの手にわたしている
：10	また口から言葉を出してはならない
：17	その家に共におる者はみな生かしておかなければならない
：18	奉納物に手を触れてはならない
：21	町にあるものは，男も，女も，若い者も，老いたも
：23	斥候となったその若い人たちは
：25	ヨシュアが生かしておいたので
7：5	おおよそ三十六人を殺し，…下り坂で彼らを殺したので
：7	アモリびとの手に渡して
：8	イスラエルがすでに敵に背をむけた今となって
：12	敵に当たることができず，敵に背をむけた
：13	あなたがたは身を清めて，あすのために備えなさい
：25	イスラエルびとは石で彼らを撃ち殺し，また彼の家族をも石で撃ち殺し
8：1	その地をあなたの手に授ける
：7	主がそれをあなたがたの手に与えられるからである
：9	待ち伏せする場所に行って身を伏せた
：18	あなたの手にあるなげやりを…わたしはその町をあなたの手に与えるであろう…ヨシュアが手にしていたなげやりを
：19	ヨシュアが手をのべると同時に
：20	荒野へ逃げていった民も身をかえして
：21	身をかえしてアイの人々を撃った
：22	生き残ったもの，逃げおおせたものは
：24	ことごとく野で殺し
：26	なげやりをさし伸べた手を引っこめなかった

：29	その死体を木から取りおろし
9：5	繕った古ぐつを足にはき，古びた着物を身につけた
：11	旅路の食料を手に携えていって
：15	彼らを生かしておいた
：18	イスラエルの人々は彼らを殺さなかった
：20	こうして彼らを生かしておこう
：21	彼らを生かしておこう
：24	あなたがたのゆえに，命が危いと
：25	あなたの手のうちにあります
：26	彼らをイスラエルの人々の手から救って殺させなかった
10：6	あなたの手を引かないで，しもべどもを助けてください
：8	わたしが彼らをあなたの手にわたしたからです
：10	彼らをおびただくし撃ち殺し
：11	多くの人々が死んだ…雹に撃たれて死んだもののほうが多かった
：19	主が彼らをあなたがたの手に渡されたからである
：20	大いに彼らを撃ち殺し…彼らのうちのがれて生き残った者どもは
：21	イスラエルの人々にむかって舌を鳴らす者はひとりもなかった
：24	この王たちのくびに足をかけなさい…その王たちのくびに足をかけたので
：26	ヨシュアは彼らを撃って死なせ
：30	イスラエルの手に渡されたので
：32	イスラエルの手に渡されたので
：40	すべて息のあるものは，ことごとく滅ぼした
11：6	ことごとく殺させるであろう
：8	主は彼らをイスラエルの手に渡された
：11	ことごとくそれを滅ぼし，息のあるものは
：14	滅ぼし尽し，息のあるものは，ひとりも残さなかった
：17	ことごとく捕らえて，撃ち殺した
12：4	レパイムの生き残りのひとり
13：1	ヨシュアは年が進んで老いたが…あなたは年が進んで老いたが
：12	オグはレパイムの生き残りであった
：21	撃ち殺した
：22	そのほかに殺した者どもと共に殺した
14：9	おまえの足で踏んだ地は
：10	わたしを生きながらえさせてくださいました
：11	今もなお，モーセがわたしをつかわした日のように，健やかです
20：3	あやまって，知らずに人を殺した者を
：5	あだを討つ者が追ってきても，人を殺したその者を，その手に渡してはならない．彼はあやまって隣人を殺したのであって
：6	その時の大司祭が死ぬまで
：9	あやまって人を殺した者を
21：13	人を殺した者の，のがれる町であるヘブロン
：21	人を殺したものの，のがれる町であるエフライムの山地
：27	人を殺した者の，のがれる町であるバシャンのゴラン
：32	人を殺した者の，のがれる町であるガリラヤのケデシ
：38	人を殺した者の，のがれる町であるギレアデのラモテ
：44	主が敵をことごとく彼らの手に渡されたからである
22：4	あなたがたは身を返して
：31	イスラエルの人々を，主の手から救い出したのです

23：1	ヨシュアも年が進んで老いた
：5	あなたがたの目の前から追い払われる
：12	これらの国民の，生き残って，あなたがたの中にとどまる者
：13	あなたがたのわきに，むちとなり，あなたがたの目に，とげとなって
：14	心のうちにまた，肝に銘じて知っているように
24：7	わたしがエジプトでしたことを目で見た
：8	あなたがたの手に渡して
：10	わたしは彼の手からあなたがたを救い出した
：11	彼らをあなたがたの手に渡した
：17	われわれの目の前で
：29	ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ
：31	ヨシュアのあとに生き残った長老たちが
：32	ヨセフの骨は
：33	アロンの子エレアザルも死んだ

III. 身体各部位の名称〔使用語・箇所・回数〕

a： 頭部

部　位	使用箇所（章と節）	回数
こうべ	רֹאשׁ 2：19　2：19	2
目	עַיִן　עֵינַיִם 5：13　23：13　24：7	3
目の前	עַיִן　עֵינַיִם 23：5　24：17	2
口	פֶּה 1：8　6：10	2
舌	לָשׁוֹן 10：21	1
くび	צַוָּאר 10：24　10：24	2

b： 体幹部

用　語	使用箇所（章と節）	回数
肩	שְׁכֶם 4：5	1
背	עֹרֶף 7：8　7：12	2
わき	צַד 23：13	1
肝	בְּכָל נַפְשׁ 23：14	1

c： 上肢部

用　語	使用箇所（章と節）	回数
手	יָד 2：19　2：24　4：24　5：13　6：2　6：18　7：7 8：1　8：7　8：18　8：18　8：19　8：26 9：11　9：25　9：26　10：6　10：8　10：19　10：30 10：32　11：8　20：5　21：44　22：31　24：8　24：10 24：11	29

d： 下肢部

用　語	使用箇所	回数
足	רֶגֶל 3：15　4：3　4：9　5：15　9：5　10：24　10：24 14：9	8
足の裏	כַּף־רֶגֶל 1：3　3：13　4：18	3

IV. 生命に関する用語（箇所・回数）

用　語	使用箇所（章と節）	回数
死ぬ	מוּת בֵּן 1：1　1：2　5：4　5：6　10：11　10：11　10：26 20：6　24：29　24：33	10
死	מָוֶת 2：13	1
殺す	מָוֶת 7：5　7：5　7：25　7：25　8：24　9：18　9：26 10：10　10：20　11：6　11：17　13：21　13：22　13：22 20：3　20：5　20：5　20：9　21：13　21：21　21：27 21：32　21：38	23
生れる	יָלוֹד 5：5	1
生きる	חָיָה 1：5　1：18　2：13　6：17　6：25　8：22　9：15 9：20　9：21　10：20　12：4　13：12　14：10　23：12 24：31	15
命	נֶפֶשׁ 2：13　2：14　9：24	3
息	נְשָׁמָה 10：40　11：11　11：14	3

V. 身体の状態を表わす用語（箇所・回数）

用　語	使用箇所（章と節）	回数
割礼	מוּל 5：2　5：3　5：4　5：5　5：5　5：7　5：7 5：7　5：8	9
健やか	חָזָק 14：11	1
老いる	זָקֵן 6：21　13：1　13：1　23：1	4
若い	נַעַר 6：21　6：23	2
傷	מוּם 5：8	1
死体	נְבֵלָה 8：29	1

VI. その他の用語（箇所・回数）

用　語	使用箇所（章と節）	回数
身	בָּשָׂר 2：16　2：23　3：5　7：13　8：9　8：20　8：21 9：5　22：4	9
血	דָּם 2：19　2：19	2
骨	עֶצֶם 24：32	1

VI. 結果と考察

古代思想において，「人とからだ」との関わりがどのようであったかを知るために，ヨシュア記24の全章から，「人とからだ」に関わる言葉が，どの箇所で，またそれがどのように用いられているかについて逐一拾い上げたところ，全部で144箇所で用いられていることが明かとなった．そこで，それらを次のように分類したところ，次の結果が得られた．

(1) ヨシュア記が書かれた時代の「人」のあいだでは，ギリシャや近世の「からだ」に当たる用語が，まったく使用されていないことがあきらかになった．

(2) 身体各部位の名称として用いられている用語は，全部で57箇所であった．そのうち上肢部が29箇所で最も多く，次いで頭部が12箇所，下肢部が11箇所，体幹部が5箇所の順

であった．
(3)　生命に関する用語は，全部で56箇所で用いられていた．その中でも「殺す」 מָוֶת が最も多く23箇所，次いで「生きる」 חָיָה は15箇所であった．
(4)　身体の状態を表す用語は，全部で18箇所であった．
(5)　その他の用語は，全部で12箇所で，「身」 בָּשָׂר が最も多かった．

モーセ五書においてもそうであったように，ヨシュア記の中には，「からだ」という言葉が見当たらない．古代思想において，旧約時代の「人たち」のあいだには，なぜ今日われわれが用いている「からだ」という概念が存在しないのであろうか．天地創造の後で「神は自分のかたちに人を創造された」とある（創世記 1_{27}）．これによれば，やはり神は「人」を創造されたのであって，「からだ」を作られたのではない．では，この地球上にあって，どの民族に，何時頃から，今日の「からだ」の概念が発生したのであろうか．著者らが本研究を継続しているテーマの中心はそこにある．そこだけにあって，それ以外ではない．「からだ」とは一体何なのであろうか？　その「人」がその人の「からだ」の価値観を，いかなる原点に立って評価するのであろうか．そして国や民族の相異によるその価値観の変遷の過程を追及して，具体的な事象の変化を把握したいと願う．その解明の糸口として，古代思想における「人とからだ」の命題の鍵を解くために，著者らはまず旧約聖書にそれを求めた．

VII.　あとがき

もしそれ人とはからだのことであると
さういふならば誤りであるやうに
さりとて人は
からだと心であるといふならば
これも誤りであるやうに
さりとて人は心であるといふならば
また誤りであるやうように

これは宮沢賢治の詩「月天子」の中の一節である．哲学，生理学，心理学，社会学，あるいは物理学などの学問分野のアプローチによって，「人」，「からだ」，また「心」とかいうものの「実体」を，完全に解明しつくすことが可能なのであろうか．「月天子」の詩は，われわれに「この問題の解決は，永遠の謎である」という暗示を最も露骨に訴えているようにさえ思えてならない．

また，プラトンとアルキピアデスとの対話にこんなのがある．
プラトン「すると，いったい人間とは何なのだろうか」
アルキピアデス「言えません」
プラトン「言えるとも，体の使用者だということだけはね」

アルキピアデス「なるほど」
プラトン「で，そうすると何かほかに体の使用者があるかしら，魂のほかに」
アルキピアデス「ありません」

二人のきわめて短いこの会話から，一体何を学びとることができるだろうか．ここでプラトンの言う「体」と「魂」とは何なのだろうか．はたして宮沢賢治の「からだ」と「心」とをそのまま置き換えてよいのであろうか．しかし，たとえこの問題が「永遠の謎」であるとしても，われわれはこの命題から逃げ出すわけにはゆかない．

「からだ」とその健康の問題を取り上げて，C. ヒルティ（1833-1909・スイスの哲学者）は「眠られぬ夜のために」の中で，次のように述べて，われわれ現代人の「最高の関心事は何か」を厳しく指摘している．

今日の教養ある人々においてみられる最も嘆かわしい現象の一つは，彼らが健康に余りにも大きな価値を置くことである．健康保持の関心があらゆる他の関心を凌駕するほどのものであるのを実にしばしば見受ける．世界歴史において幾千の蒲柳の人病弱の人が，それにもかかわらず，然りしばしばそのゆえに，最大の事業や苦難に能く耐えたことを，全く忘れているように思われる．（中略）

健康はたしかに大きな賜ではあるが，これを過重してはならない．むしろ健康の減退，あるいはその喪失すらも，品位をもって耐え忍ぶことを学ぶべきである．なんとなれば，健康は最高にしてまた不可欠の善福ではないからである．

さらにヒルティは，この文章の終りに，つぎのように結んでいる．

生命（いのち）は財宝（たから）の最高（いと）きものに非ず，
禍悪（わざわい）の最大（いと）いなるは罪過なり　［シラーの劇詩『メッシナの花嫁』より］

ヒルティは「健康は最高にしてまた不可欠の善福ではない」と言う．また F. シラー（1759-1805・ドイツの劇作家）は「生命は財宝の最高きものに非ず」と言う．その「最高のもの」とは何か．ヨシュア記はその答えを明確に示す．それは「お前たちの足の裏をもって征服せよ」と命じられたヤハ ウェ の意志であり，業（わざ）であり，ヤハ ウェ 自身のことである．

□文中のヘブライ語は，すべて平沢所有の字母を用いた．

参考文献

1) Interlinear Hebrew-English Old Testament : KREGEL REPRINT LIBRARY by George Ricker Berry (1975)
2) JAMES MOFFATT : THE MOFFATT TRANSLATION OF THE BIBLE, CONTAINING THE OLD AND NEW TESTAMENTS (1964)
3) NOVUM TESTAMENTUM GRAECE : BESTLE-ALAND. 26 th. (1979)
4) THE NEW ENGLISH BIBLE : OXFORD UNIVERSITY PRESS. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS (1970)

5) RUDOLF KITTEL : BIBURIA HEBRAIKA (1937)
6) 関根正雄訳：出エジプト記，岩波文庫 (1969)
7) 旧約聖書：日本聖書協会 (1956)
8) 聖書語句大辞典：教文館 (1959)
9) キリスト教大辞典：教文館 (1968)
10) 新聖書大辞典：キリスト新聞社 (1971)
11) Alfred Rahfs : SEPTUAGINTA, EDITIO SEXTA (1931)
12) 平沢彌一郎，臼井永男：古典の中の人とからだ(1)—詩篇の中から—，放送大学研究年報(5)：91-113 (1987)
13) 平沢彌一郎，臼井永男：古典の中の人とからだ(2)—創世記の中から—，放送大学研究年報(6)：121-134 (1988)
14) 平沢彌一郎，臼井永男：古典の中の人とからだ(3)—出エジプト記の中から—，放送大学研究年報(7)：89-109 (1989)
15) 平沢彌一郎，臼井永男：古典の中の人とからだ(4)—レビ記の中から—，放送大学研究年報(8)：37-54 (1990)
16) 平沢彌一郎，臼井永男：古典の中の人とからだ(5)—民数記の中から—，放送大学研究年報(9)：19-40 (1991)
17) 平沢彌一郎：福音書異同一覧，山本書店 (1981)
18) 平沢彌一郎：聖書を読む，論創社 (1987)
19) 平沢彌一郎：小使徒，小使徒社 (1989)
20) 平沢彌一郎：小使徒巻頭言集，論創社 (1992)
21) J. Robinson : The Body, p. 11, n. 2 (1952)
22) 真方敬道：古代思想にあらわれたひとと体，聖書とその周辺，伊藤節書房，251-271 (1959)
23) 関根正雄訳：ゼリンニロスト：旧約聖書総論，侍農堂 (1965)
24) 関根正雄：旧約聖書，創元選書・創元社 (1966)
25) 田中理夫：申命記，旧約聖書注解シリーズ，新教出版社 (1958)
26) 山本七平訳・ウィルネ・ケラー：歴史としての聖書，山本書店 (1958)
27) 山本七平訳・F. ジェイムズ：旧約聖書の人びと I，山本書店 (1985)
28) 平沢彌一郎・足の裏は語る，筑摩書房 (1991)

(平成 5 年 11 月 15 日受理)